

# 情報機器を活用した音楽科（鑑賞）の実践

明戸小学校 実践者 教諭 木村 績男  
報告者 教諭 市川 武

## 1 題材名 曲想を感じとろう 第5学年

歌唱「秋にさよなら」 鑑賞「アイネ クライネ ナトムジク」 器楽「キリマンジャロ」

## 2 単元の目標

- ・曲想を感じ取って、想像豊かに聴いたり表情豊かに表現したりすることができるようにする。
- ・作曲者について調べたり、鑑賞曲を演奏したりして曲想を感じとるとともに、自らの思いを表現する楽しさを味わったりできるようにする。
- ・曲想や歌詞の内容を生かして、表現の仕方を工夫することができるようにする。

## 3 情報機器活用の意図

本題材は、歌唱 鑑賞 器楽の三つの活動を通して「曲想を感じとる」ことをテーマにしている。歌唱や器楽では、楽譜通りに演奏することで、ある程度その曲の特徴をつかんで味わうことができる。しかし、鑑賞は、聴いて感想を書くといった単調な活動に終始してしまうことが多い。そこで、本学習では、曲を聴いて感じることから一歩進んで、作曲者の他の作品を味わったり、作曲者についてくわしく調べたり、さらに聴く活動から作曲へと発展させることで、音楽に対する興味・関心を高めたいと考えた。また、情報教育との関連を図り、機器を活用して、音楽を聴いたり、調べたり、音楽ソフトを使って作曲したりと活動の場を広げることで、児童の情報活用能力の育成にもつながると考えた。

## 4 実践の概要

### (1) 本時の目標

- ・曲想の変化を感じ取ったり、自分の思いを表現する活動に進んで取り組んでいる。
- ・言葉のイメージに合うリズムやふしづくりを工夫している。

### (2) 学習の展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（＝評価）
1 既習曲「秋にさよなら」を歌う。	・言葉をていねいに歌うことで短調の感じが表現できるようにする。
2 既習の「アイネ クライネ ナトムジク 第3楽」のDVDを視聴する。	・楽譜（掲示用）によって、強弱記号や音符の違いを示して曲想を表現できるようにする。
3 本時の活動の確認をする。	自分から進んで歌っている【口の開け方や表情】(ア) ・DVDを視聴したり、作曲者（モーツァルト）の写真を提示することで、曲想を感じ取ったり、表現する活動に意欲的に取り組めるようにする。
モーツァルトについてたくさん調べて、きみもモーツァルトになろう！	
(1) 鑑賞曲をもとに、作曲者について調べたり、鑑賞曲を演奏したり作曲したりする活動をする。	・本時の課題を示すことで、目的をもって活動できるようにする。

## おもな学習活動

モータルトについて調べる

- ・インターネットや資料を使ってモータルトの他の作品を鑑賞する。
- ・ノートパソコンのCD再生機能で鑑賞曲を自分で演奏する。



言葉のイメージから作曲をする。

- ・「キミミュージック」を使って
- ・録音機能を使って
- ・自分の好きな楽器を使って

(2) それぞれ活動したことを記録する。

- ・「はっぴょう」でまとめる。
- ・学習カードにまとめる。
- ・作曲したものを保存する。
- ・鑑賞カードに感想を書く。

4 本時の学習のまとめをする。

- ・調べたことや作曲したことでもかったことやがんばったことを発表する。



- ・次時の活動を聞く。

- ・モータルトについて調べたことは、予め用意した鑑賞カードまたは、発表ソフトをつかって簡潔にまとめるようにする。「発表めいじん」
- ・予めモータルト関連のホームページを検索ページに載せておくことで学習の効率化と精選化を図る。
- ・ノートパソコンを活用し、それぞれにヘッドホンを用意して、一人一人の興味関心により鑑賞できるようにする。(6台分)
- ・自らの興味、関心を高めるためにいくつか活動を組み合わせてもよいことを知らせる。(個に応じて)
- ・作曲はコンピュータの音楽ソフトや録音機能を活用して、感覚的に作曲できるようにする。(ボイスレコーダー機能)
- ・作曲を中心とするため、教科書を参考にして言葉(詞)は予め用意しておくようにする。

調べ活動や表現活動に進んで取り組んでいる

【児童の活動の様子から】(ア)

言葉のイメージに合うリズムやふしづくりを工夫している 【児童の作品づくりの活動の様子から】(イ)



- ・目的をもって意欲的に活動していた児童を認め、賞賛する。
- ・次時はテーマごとに発表会をすることを伝え、学習意欲が持続するようにする。

## 5 成果と課題

DVD(全体)やノートパソコンのCDプレーヤー機能(個別)を活用したことで、鑑賞の手段が増え、子どもたちの学習意欲を高めることができた。

パソコンのボイスレコーダー機能を使って、録音再生を容易に行うことができた。

課題別学習で行ったことで、個々の活動状況を把握しきれない面があった。また、まとめでは、グループ内の発表で終わってしまい、全体発表の時間をとることができなかった。

ポータブルプレイヤー(DVD)とコンピュータ室のオーディオとを結ぶのに苦心した。今後、DVDのソフトが増えることを考えると容易に再生視聴できる環境がほしいと感じた。